

脳梗塞後の潜在性心房細動検出のためのバイオマーカー： NT-proBNP vs BNP

白戸 弘志

一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 内科
青森県立保健大学大学院健康科学研究科 保健・医療・福祉政策システム領域

BNPは心不全領域で広く用いられ、脳梗塞後の潜在性心房細動検出予測などにも使用されてきたが、近年ではNT-proBNPがその役割を担うようになった。

しかし、両者の性能を直接比較したデータは不足しており、特に腎機能障害患者での評価には課題が残っている。

弘前脳卒中・リハビリテーションセンターは、青森県弘前市にあり、急性期から回復期リハビリまで一貫した脳卒中治療を提供する248床の専門病院であり、年間およそ800例の脳卒中入院がある。

当センターで実施した「脳梗塞後の潜在性心房細動検出のためのバイオマーカー探索研究」では、脳梗塞患者におけるNT-proBNPとBNPの性能を詳細に比較した。

本セミナーでは、NT-proBNPとBNPの特性の違い、脳卒中診療における役割、臨床性能の違い、慢性腎臓病患者での挙動の違いを、実際の臨床データを基に比較し、エビデンスに基づくバイオマーカー選択の指針を提示する。